

【広島県立安芸府中高等学校】

## 手作り、予算ゼロでも出来る！オンライン海外交流プロジェクト

### ～安芸府中高等学校・魅力化向上プロジェクト～

生徒たちに「真正な学びの場を」提供

グローバル教育の先駆けとして30年前に開設された広島県立安芸府中高等学校国際科。加藤賢一先生は、2021年4月、Zoomを通して世界の隅々まで繋がりたい。そしてグローバルな人材を育成したいという思いで、安芸府中高等学校国際科 魅力化向上プロジェクトを開始しました。

「2年生の8月に毎年実施しているオーストラリアでの海外研修も、新型コロナウイルスの影響を受けたことで、実施が出来ない状況でした。本校国際科の魅力を向上し一人でも多くの生徒に本校を受検してもらうため、オフラインでの取り組み再開を待つのではなく積極的にオンラインでの取り組みを行っていかうと考え、出来ることからやっけて行こうという思いで始めたのがこのプロジェクトです。」(加藤賢一先生)

### 育成すべき生徒像の明確化

学校経営計画に基づき「育成すべき生徒像」を明確化していく中で、「伝えることができる力(communication)」「多角的に考える力(critical thinking)」「協働できる力(collaboration)」「創造できる力(creativity)」「やりぬく力(grit)」の5つのスキルを育てていくことを国際科の目標に掲げました。そして、これらの力を育成するため、英語の授業だけでなく、総合的な探究の時間、異文化間協働活動の時間などで、様々な活動を行なっています。

### 課題解決型学習PBL×異文化間協働活動

授業で取り組んでいるプロジェクトでは、まず何の為にやうのかといった目標設定を行い、それを達成する為の手段としてオンラインを活用しています。「総合的な探究の時間」におけるプロジェクト型の学習と結びつけており、授業を通して地域の課題を見つけて、それを解決に導くことを柱としています。

「英語で会話することが目標と思われがちですが、英語力よりも課題解決にむけたプロセスに重点を置いているため、プロジェクトを作成するにあたり、語学に関しては特別意識しておりません。授業で繰り返し練習を行うことで、学生たち自身で、英語の発音の大切さや学び方に気づいていきます。」(加藤賢一先生)

## 【具体的なプログラムの概要】

### ≫セブ・サイエンス校とのオンライン異文化間協働活動

国際科の2年生は、2021年4月～5月にかけてセブ・サイエンス校と協働し、ICTを利用した異文化間協働活動を行いました。今後、海外の人とのオンラインでの活動が多くなるのに伴い、国際科に興味を持ってもらうために、国際科の英語のプロモーションビデオの作成を協働活動で行いました。これは英語力だけでなく、プロジェクトを通して現実世界に即した資質・能力を身につけるために、アウトソーシングの考え方を学ぶといったねらいもあります。

### ※ICT・・・web 会議システムを活用した海外の高校生・大学生とのプロジェクト型学習



### 〈研修の構成〉

4月30日(金)	プロジェクト説明
ゴールデンウィーク	案を考える(自宅での課題)
5月6日(木)	チームごとにトピックを決定 写真を用意。紹介文を考えておく(自宅での課題)
5月10日(月)	最終の準備
5月11日(火)	セブ・サイエンス校の生徒と協働活動① (学校紹介・自己紹介・セブ・サイエンス校の生徒へ紹介文作成依頼・質疑応答等)
5月26日(水)	セブ・サイエンス校の生徒と協働活動② (セブ・サイエンス校の生徒による複数提案を頂く。一つを選択し、選択理由を伝える・振り返り)
	ビデオ作成(自宅での課題)

### ≫その他、プロジェクト事例(全て実施済み)

#### ・NZタウポ・ヌイアティア・カレッジとの異文化間協働活動

国際科1年生が取り組んだNZの高校とのオンライン交流。

自己紹介やそれぞれの国についてプレゼンテーションを行い、今後は月 1 回程度を目安に意見交換や成果発表を行っていく予定です。

・**インドネシア・ラモンガン教育委員会を介して、地区 6 校の生徒との国際協働型 PBL**

国際科 2 年生とインドネシア・ラモンガン地区の学生(中 3 相当)がそれぞれ SDGs をテーマにしたプロジェクト学習を取組み、相互に発表を行いました。

・**カナダ・バンクーバーブリティッシュコロンビア大学との国際協働型 PBL**

国際科 2 年生とカナダの大学が 6 月に 4 回に渡って行ったオンライン交流プロジェクト。

SDGs に関連付けて社会問題に目を向け、意見交換を交えながら自分達が出来た課題解決策を創造。最終的には、4 日間を通して作成したプレゼン資料を基に発表を行いました。

※これらのプロジェクトは全て無料で実施できているとの事です。

### **活動を通して感じた生徒への効果と今後の展望**

活動を通じて生徒たちは、自分に何が出来て何が出来ないのかといった課題が明確化してきたそうです。このプロジェクトでは、過程を充実させるために、授業で習ったことに対して、あえて最後にディスカッションやプレゼンテーションを行っています。これらを最後に置くことで、最終的なゴールに向けて生徒自身で何を学び、何をすべきかを理解できる仕組みになっています。

「研修を行っていく中で大切なのは”複数回行うこと”。1 回目はもっとこうしたら良かった等、生徒自身が失敗に感じる事が多く、2 回行う中で変化していきます。さらには、交流相手の国や年齢をあえて変えたことで、生徒自身、様々な楽しみ方が出来たと思います。

また、今回のプロジェクトをメディアに取り上げて頂いた結果、オープンスクールの参加者が倍増するといった結果となりました。これは大変喜ばしいことですので、今後も継続してこのプロジェクトに取り組んでいきたいと考えています。」(加藤賢一先生)